

日本映画衛星放送株式会社・第28回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成24年7月10日(火)15時~16時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー東館15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 9名 / 出席委員数 7名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・川本三郎・坂井保之・曾根和子・鳥居美砂・
田保橋淳・西 正
欠席委員(順不同、敬称略): 鈴木嘉一・石上三登志
放送事業者側出席者氏名: 代表取締役社長 杉田成道
常務取締役 酒井 彰
編成制作部部长 宮川朋之
編成制作部担当部長 澤 尚志
番審担当 堤 靖芳、清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

時代劇画専門チャンネル8月放送映画『十三人の刺客』 PG12 について。

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネルより報告事項2題。

10月放送予定『人魚伝説』を、当社指定[R15]作品とし、ペアレンタル
ロックをかけることの報告。

第2回衛星放送協会オリジナル番組アワード受賞報告。

5. 議題(1) 概要

時代劇画専門チャンネルで8月に放送される『十三人の刺客』(映画倫理委員会(以下映倫) PG12 指定作品)は、放送に当り[PG12]マークをホームページ、番組宣伝CM、EPG、本編前などに表示する他、番組冒頭に残虐表現に関するお断りテロップを付し、ナレーションで読み上げる予定である。

ゲームソフト業界においても激しい残虐表現を含んだ商品があるが、そうした商品のプロモーション映像の中には具体的な注意喚起のテロップを入れているものもある。時代劇画専門チャンネルの番組宣伝CMは、現在[PG12][R15]といった表示を入れているだけだが、こうした他業界の状況も踏まえ、作品取り扱いの適正性について、番組宣伝CMのあり方などを含めてご審議いただき、今後のチャンネルの考査、宣伝、放送のあり方の参考とさせていただきます。

6. 審議内容

<番組審議委員意見>

- ・リメイク作品だが、残虐な殺戮シーンがエスカレートした。しかし、有料テレビで放送することに異存はない。放送前のお断り文など、扱い方も十分と考えている。
- ・映倫基準も時代と共に変わっている。だから、チャンネルとして独自の基準を持った方が良い。有料放送は地上波民放よりも制限が緩くて良いと考える一方、ケーブルテレビなど一旦契約すれば自由に観られるので、緩い審査基準で良いのか、という気もする。
- ・暴力表現についてはテロップで十分。ナレーションまで入れるのであれば、全く問題ない。青少年の健全な育成を約束している以上、こうした番組は注意して放送する。ただ、注意し過ぎて子供のチャンバラ離れが進むことは問題。
- ・放送することに異議はない。放送する側が自信を持って放送しているのだったらそれで良い、という信頼を視聴者との間に築いていくことが大事。
- ・PG というのは「ペアレンタル・ガイダンス」で、その言葉にこだわって、この映画を前にどういう指導・助言が出来るか考えると難しい。だが、視聴者はより多くの作品を放送して欲しいと願っている。観る観ないは視聴者の判断、という考え方もある。
- ・映倫で PG12 に区分しているが、残虐な描写があると一言入れるという提案に対しては、親切だと思った。番組宣伝 CM は、[PG12]の表示のみ入っていれば、それで良い。
- ・専門チャンネルだから、この作品をこなすぐらいのワイドな政策があっても良い。「文化の送り手です。モラルを守ります」とメッセージするためには、規制をかける方が視聴者にはプラス。ただ、敢えてリスクな作品をチョイスする必要があるのか。
- ・映倫ではなく、自分たちの判断をはっきりさせていくべき。番組宣伝 CM は作品の良さを伝えるという主旨に徹し、[PG12]の表示があれば、お断りは要らない。

<事業者回答>

- ・『十三人の刺客』は、日本映画専門チャンネルで放送するに当たり、残虐描写があることをテロップで注意喚起した。時代劇専門チャンネルでは、青少年視聴者のみならずシニア向けにも、ナレーションを入れて説明する。皆様からご賛同頂き、心強く思っている。
- ・番組審査としては、映倫判断をひとつの基準とし、基本的に現在の映倫判断よりも厳しく判断しているが、昔 成人映画 とされた作品で、現在放送に支障のないものもある。また、先般放送法が改正され、我々が日本映画専門チャンネルを放送している BS、時代劇専門チャンネルがハイビジョン化された 110 度 CS は、「衛星基幹放送」とされ、「一般放送」と明確に区別された。「基幹放送」としての放送の安全性や青少年配慮が必要だ。従って、我々は今、放送する側の基準を持たざるを得ないと考えている。我々自身が考えて、作品の扱いを決めていかなければいけない。
- ・『十三人の刺客』は、斬って斬って斬りまくって残酷にやるのが監督のひとつの主張だ。それは放送に当たって問題だが、当社のチャンネルは監督の主張を尊重することで成り立

っているから、作品を扱う判断も個別になる。また、日本映画は年間に約 440 本公開されているが、放送出来ない作品も多い。話題性がある作品は選択していきたい。

7．議題（2）報告事項

- ・日本映画専門チャンネル 10 月放送予定『人魚伝説』（公開時映倫 一般映画 指定）は、性表現が激しく、暴力表現も生々しい現実的な行為として映し出されている。従って、当社指定の[R15]作品としてペアレンタルロックをかけて放送する予定。

8．議題（2）報告事項

- ・衛星放送協会は、オリジナル番組アワードを創設し、最優秀番組を決めている。2 回目の今回は、日本映画専門チャンネルの「映画は世界に警鐘を鳴らし続ける」という編成企画が、「編成企画部門」で最優秀編成企画に選ばれ、先日表彰を受けた。

- 9．その他参考事項：次回番組審議委員会は、2012 年 9 月 11 日開催。 (以上)